



ユニ総合計画の グリーンレポート

1 級 建 築 士
不動産コンサルタント

秋山英樹

1月号

発行日2012年1月

「(続)情報化時代は終焉するか？」

あけましておめでとうございます。

今月は昨年1月号の続きをお届けします。

私も、グリーンレポートや書物を執筆するにあたり、いろいろな情報を調べます。昔なら、本屋に行って関係図書を探し内容を読んで調べます。最近では、主にインターネット検索から行いますが、この数年情報量が多すぎて確かな情報を取り出す作業に時間がかかるようになりました。検索される情報は年々増え続けており、どの情報が新しく確かなのかが分かり難いと、誰もが感じているでしょう。

手っ取り早いのがウィキメディア財団が運営しているフリー百科事典ウィキペディアで皆さんも多く参考にしているでしょうが、内容が正確なのかどうかは保証していません。そのため、参考情報のひとつになりますが、当然他の情報も検索しなければなりません。

情報は活字になると信用性が高まります。欧米のようにタイプライターが普及しないわが国では、活字情報は正しいのだという感覚が少なくとも40代以上の年齢層にはあります。そのため無意識のうちに正しい情報として取り込んでしまう危なさがあることを意識する必要があります。

現在ではインターネット情報は、情報提供者が削除しない限り情報はネット上に存在したままです。そのため、情報は限りなく増える一方です。また、情報を掲示するレンタルサーバーの容量もギガベースで月額1000円程度で可能なため情報を削除しないケースが多いのも要因でしょう。さらに迷惑メールやウイルスメールも増え続けていますが、いまさら自分のアドレスを変える訳にもいきません。

現在の状況があと10年間続いたらどうなってしまうのか恐ろしいくらいです。当然、検索ソフトもよいものが開発されるでしょうし、ウイルス対策ソフトも新しいものが開発されます。

そうすると、IT産業なしには社会が成り立たなくなってしまうそうです。私たちはそれに翻弄(ほんろう)されつつ、インターネットを使用していかなざるを得ない未来になってしまうのでしょうか。

私はいささか否定的です。

先月お話ししました、「ハイテック・ハイタッチ」を考えれば、ハイテクが限りなく進むことはないと思います。ある時点まで行き着くと、急激に減

退する(カタストロフする)事象が起きるのではないかと考えています。

もちろん、インターネットがなくなることはないのですが、インターネット情報自体の信用性が薄らぐことは確かだと思います。

現在でも、店や人の評価・中傷など確かでない情報がはびこっていますよね。最近では「やらせ評価」事件も発覚しました。

インターネットを使用しての会話(メール)はそもそも、人間通しが会話するDNAには刷り込まれていないはず。そのため、見えないものについての不安はいつも付きまとい続けているにもかかわらず、さらに見えないものへ進化(?)し続けているのが現状なのだと思います。

しかし、それは、行き着くところまで行く前に崩壊する可能性が大きいのです。そのため、「見えないものを見る化するビジネス」といったらよいかもしれませんが、そのようなビジネスが登場するのだと思います。

具体的には分かりませんが、そのひとつにセルフビルドがあるでしょう。セルフビルドも自分で手を動かしてつくらなくとも頭の中でつくることまで範囲を拡大して考えればいろいろな発想ができますね。頭で作るセルフビルドを拡大発想すれば、スポーツについても同様なことがいえます。

韓国の人気スポーツの第一位はサッカー。第三位野球。それでは第二位はというクイズで答えはEスポーツでした。Eスポーツはエレクトロニクススポーツで、いうなればコンピュータゲームです。日本では体を動かすのがスポーツだと思っていますが海外ではゲームもスポーツの一種と考えるそうです。

そういえば工業化社会で生まれたのがモータースポーツと言いますね。チェスもスポーツで、頭脳スポーツ(Brain-Sports)と言うようです。

そこで、戦後のアメリカの行った日本への3S政策を思い出しました。スクリーン・スポーツ・セックスのSですが、この3つを広めればその国は衰退するというもので、皆さんも聞いたことがあると思います。最近のゲームブーム、クイズブームは海外ではスポーツなんだと思ったら妙に納得がいきました。